「しかし」と「でも」の談話分析

日　野　資　成

0．はじめに

「しかし」と「でも」の談話分析を行う前に，まず「談話」と「談話分析」を定義するために『言語学大辞典』の「談話」の項から２箇所引用する。

> いくつかの文が連続し，まとまりのある内容をもった言語表現を談話という。話されたもの，書かれたものの両者を含む。会話，スピーチ，ニュース，手紙，小説，広告文など。(『言語学大辞典　第６巻　術語篇』897ページ右，傍線は筆者)

> 談話は，単に文が連続しているだけではなり立たない。たとえば，「そこに辞書があるでしょう。電話は私が掛けます」という発話は，全体として何らまとまりがない。しかし，「そこに辞書があるでしょう。それ，とても良いですよ」という発話は，全体として１つのまとまり，統一性をもっており，談話（の一部）としてなり立つわけである。これをテキスト性（textuality）をもっているという。談話研究において，このようなテキスト性を成立させる要因を分析し，その規則的特徴を明らかにしようとする分野を談話分析（discourse analysis, DA），あるいは，テキスト言語学（text linguistics）という。(同898ページ右，傍線は筆者)

「談話」とは，「全体として一つにまとまり，統一性を持った言語表現」ということができる。「話されたもの，書かれたものの両者を含む」とのことであるが，本稿は主として話されたものを取り扱う。また，「談話分析」

とは，「まとまり，統一性を成立させる要因を分析し，その規則的特徴を明らかにする学問分野」ということができる。

今回，数多くのことばの中から，特に「しかし」と「でも」を取り上げたのは，この二つの語が，話しことばにおいて頻繁に用いられていることに加えて，「しかし」と「でも」が談話に「統一性」を持たせたり，「でも」が談話において「規則的特徴」をもって現れることに注目したからである。

談話分析の資料は，書かれたものとしては阿刀田高の「影絵の町」を，話されたものとしてはバラエティショー「さんまのまんま」「おしゃれカンケイ」，ニュース「ブロードキャスター」，そして筆者と妻との会話を使用する。

先行する論文で「しかし」と「でも」を取り上げたものはあまりなく，唐津（1995）が，談話における「しかし」と「でも」の分類をしているのみである。まず第1節で唐津による分類を紹介し，それにもとづく私の分類を提示する。続いて第2節では，書きことばに現れる「しかし」と「でも」を検討し，第3節では話しことばに現れる「しかし」と「でも」を，私の集めた資料にもとづいて検討する。

1．唐津（1995）の分類

唐津（1995：122）は，談話に現れる「しかし」と「でも」を次の3種類に分類している。

(1) 唐津による「しかし」と「でも」の分類

(a) 逆接

(b) 反対のトピックを導入する

(c) 前の文脈を切りはなす

それぞれの例を紹介する。まず，(a)の逆接を表す例を示す。

(2) 「しかし」の例

A：日本の場合には受験がね，特に一番たいへんなのはやっぱり高校から大学に行く時かな。そうとうひどいんですな。苦しみが。

B：そうですね。だからみんな受験が終って大学が始まるまでの一ヶ月にほんとうに遊びほうけて，頭がからっぽになるって，みんないいますね。わたしもそうでした。

A：まあ，しかし長い人生ではそういう経験もいいでしょうな。

「インタビューで学ぶ日本語」(1991)

(3)　「でも」の例

A：わたし，2回続けてスライド係になっちゃった。

B：たいへんですね，それ。

A：でもこれだけですむからいいやと思って。事前なこれとかんなっちゃったらたいへんだけど。わりとからだをそこに運んでいけば。

B：まあ一日でできますよね。　（オフィスでの女子学生二人の会話）

(2)の「しかし」は，「日本では受験がたいへんだ」という見方に対立する見方「受験という経験も必要だ」を導く「逆接」の用法である。(3)の「でも」も，Bの「スライド係はたいへんだ」という見方に対立するAの見方「スライド係だけだからたいしたことはない」を導く「逆接」の用法である。

次に，(b)の「反対のトピックを導入する」例を示す。

(4)　「しかし」の例

A：腰の骨とかしっぽの骨なんですけど，それら計算するとなんと50メートルになるという。もうべらぼうですよ。

B：しかし，逆にいうと小さい恐竜がいるってみんなあんまり知らないんですよね。

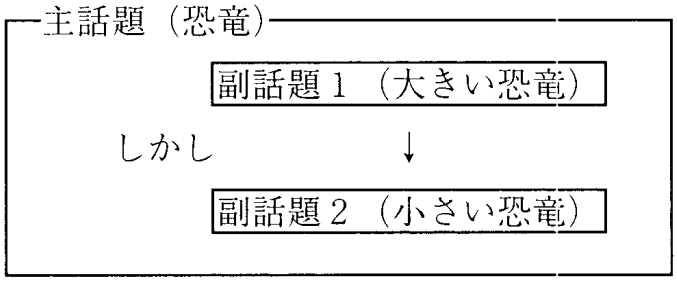
A：ええそうなんです。一番小さいのは．．．

「筑紫哲也のニュース23時」(1992)

(4)の「しかし」は，Aの「大きい恐竜がいる」という話題と反対の，Bの話題「小さい恐竜もいる」を導いているので，(2)(3)と同じ逆接の用法にも見えるが，(2)(3)と違うのは，逆接でつなぎながら一方で「小さい恐竜」という話題を導いていることである（「しかし」以下は小さい恐竜についての話題が続いている）。ここでの主話題は「恐竜」で，その主話題の中で，「大きい

恐竜」から「小さい恐竜」へと話題が変化している（図１）。

図１　「しかし」による話題転換



「でも」の例は挙げられていない。

最後に，(c)の「前との文脈を切りはなす」例を挙げる。

(5)　「でも」の例

A：やっぱりこのコマーシャル入れないとその人のこうなんかプライド傷つけますからね。

B：そりゃそうですね。

A：そういうこと言えないですね。

B：そうですね。でも田原さんは今うかがっているとほんとうにお話しがお上手でいらっしゃるんですけど。

A：いえいえ。

B：これはおでんなるっていうのは本職じゃなかったんですよね。もともと。

「徹子の部屋」(1992)

(5)の「でも」は，前の文脈とは全く関係のない話題「田原さんは話が上手だ」を導いているので，前の文脈を切りはなしている。

「しかし」の例は挙げられていない。

唐津の挙げた(2)から(5)の「しかし」と「でも」の例が，(1)の３つの種類のどれに当たるかを示すために，次の表１に唐津による例の番号を入れた。

表１　唐津による「しかし」と「でも」の例の種類

	しかし	でも
a．逆接	(2)	(3)
b．反対のトピックを導入	(4)	なし
c．前の文脈を切りはなす	なし	(5)

表１に示したように，唐津の論文では「でも」のｂの例と，「しかし」のｃの例がない。この二つの用法こそが話しことばに現れる「しかし」と「でも」の特徴である。第３節でくわしく検討する。

この論文でも，基本的には唐津による(1)の分類を踏襲するが，ａの「逆接」は書きことばにおける「しかし」「でも」を記述するときの術語であり，私の話しことばにおける談話分析では「相手と逆のことを主張する」とする。たとえば(2)では，Ａによる「しかし」は「日本では受験がたいへんだ」という見方に対立するＡの主張「受験という経験も必要だ」を導いている。また，ｂの「反対のトピックを導入する」は，「トピックシフト」（トピックを少しずつ変える）の用法として取り扱う。(4)の例で，話題は，主話題「恐竜」の中で「しかし」によって「大きい恐竜」から「小さい恐竜」へと少しずつ変ったからである。ｃの「前の文脈を切りはなす」は，「（前の文脈を飛び越えて）感動的に振り返る」用法としたい。(5)の例でＢは，感動してＡの話しぶりを振り返って「でも」を使っているからである。(1)の唐津による分類を踏まえた，私の分類を次にまとめる。

(6)　話しことばにおける「しかし」と「でも」の種類

(a)　相手と逆のことを主張する

(b)　トピックシフト

(c)　（前の文脈を飛び越えて）感動的に振り返る

話しことばにおける談話分析をする前に，まず書きことばに現れる「しかし」と「でも」を検討する。

2．書きことばに現れる「しかし」と「でも」

阿刀田高の「影絵の町」に現れる「しかし」と「でも」を会話文で使われている語と地の文で使われている語に分けて分類する。書きことばであるから，「逆接」「トピックシフト」「感動的に振り返る」の三つに分類し，その数を表２に示す。

表２　「影絵の町」に現れる「しかし」と「でも」の分類

	しかし		でも	
	会話文	地の文	会話文	地の文
a．逆接	2	15	15	6
b．トピックシフト	0	0	0	0
c．感動的に振り返る	1	0	0	0

ほぼすべての例が逆接を表している。「しかし」と「でも」の逆接の例をそれぞれ一つずつ挙げる。

(7)　私たちは高円寺の安いバーで飲んでいた。しかし，それでも酒屋で買う酒よりも料金は高い。

(7)の「しかし」は，「安い」という前項に対立する「高い」を導く逆接を表している。

(8)　「なんだかゴチャまぜ料理みたいね」「でも，とにかくおいしいのよ」

(8)の「でも」も，「ゴチャまぜで印象が悪い」という前項に対立する「おいしい」を導く逆接を表している。

表１で注目すべきは，「でも」が会話文でも逆接の用法ばかりで，b，c の用法が一つもないことである。これは，会話とは言っても書かれた文であることを示している。

「しかし」に，感動的に振り返る用法が一つだけあったので次に挙げる。

(9)　A：父は２年前に死んだわ。弟は今，デュッセルドルフへ。自動車の会社に勤めていて――。

B：知らなかったなあ。どう，コーヒーでも。時間ないですか。

―― 略 ――

B：そう。健ちゃんはヨーロッパへ行ってんの。しかし，お父さんがなくなったとはなあ。

(9)で，Bは，Aの最初の会話を思い出し，感動的にAの父の死を振り返っている。この用法は，話しことばに多く見られる。次に，話しことばにおける「しかし」と「でも」の分析を試みる。

3．話しことばにおける「しかし」と「でも」

談話分析の資料は，1995年に放映されたテレビのバラエティショー（「さんまのまんま」，「おしゃれカンケイ」）とニュース番組（ブロードキャスター），そして私と妻との会話による。まず，「でも」の三つの用法，続いて「しかし」の三つの用法について検討する（談話分析の記号の説明は終りに掲げた）。

3.1「でも」の分析

(a) 相手と逆のことを主張する

次の会話は，バラエティショー「さんまのまんま」から取ったもので，ホストの明石家さんま(A)とゲストのプロゴルファー杉原輝雄(B)が，杉原の長いゴルフクラブ（長尺ドライバー）について話している。Aは立ち，Bはすわって会話している。

(10) B：曲がっている腕いうのは（0.2）その方向性を保ちやすい

A：（腕を曲げたままスイングのまね）＝

B：＝そうそう

A：いやでも（0.2）飛ばないじゃないですか：こんなもんで（0.2）強振できないですよ：？

B：いやまあ（0.1）二百二三十飛びますよ：ドライバー

A：その長尺というやつでしょ：？

B：そうそう

A：(0.5息つぎなし)でも：かなり飛距離とかジャンボとか回ったら：おいていかれるじゃないですか::

B：まあ（0.2）百ヤードぐらいですけどね（会場笑い）

A：(笑って）その差がすごすぎまんがな（会場爆笑）

（「さんまのまんま」A：明石家さんま　B：杉原輝雄）

⑽の最初の「でも」は，Bによる最初の会話の「腕が曲がっているからゴルフボールの方向性がいい」というプラスの主張に対するAの，「飛ばない」というマイナスの主張を導いている。この「でも」が「逆の主張」を導いているのは，その直後にBが「二百二三十飛びます」とさらに反論していることによって裏付けられる。

二つ目の「でも」も，Bによる直前の「長尺ドライバーを使って二百二三十ヤードボールを飛ばすことができる」というプラスの主張に対する，Aの「ジャンボ尾崎はもっとボールを飛ばすことができる」という，Bにとってのマイナスの主張を導いている。この直後にもBの「百ヤードぐらい」という（負け惜しみと冗談を含めた）反論が続いているので，この「でも」も「逆の主張」をあらわしていることがわかる。

次の会話は，バラエティショー「おしゃれカンケイ」から取ったもので，ホスト(A)の古舘伊知郎とゲスト(B)の宮沢りえが，Bの弾くバイオリンについて話している。二人の会話の直前に，Bの小学校時代のテレビコマーシャルが流れ，その中でBがバイオリンを弾いていた。

⑾　A：は::(会場拍手）でもね（0.1）あんなかでいちばん注目したいのはやっぱバイオリンだね（0.3）

B：ん::=

A：=似合うもの（0.2）あれで尺八なんかぷ::て（0.1）絶対似合わないもの

B：(笑い)

A：バイオリンてふつうでもさ：

B：はい

A：似合わないよ（0.1）なかなか

B：（0.3）でもあたしぜん：：ぜん弾けてないんですよあれ

（「おしゃれカンケイ」A：古舘伊知郎　B：宮沢りえ）

最初の「でも」はcの「感動的に振り返る」用法で，あとで検討する。2番目の「でも」はAが自分で言った「Bはバイオリンが似合う」ということに対する反対の主張「普通の人にはバイオリンはなかなか似合わない」を導いている。最後のBによる「でも」も，Aによる「ふつうは似合わないバイオリンがBにはとても似合ってすてきだ」という感想に対する否定の主張「似合っているようで，実は弾けていない」を導いている。最後の「でも」によるBの否定的自己主張は，2番目の「でも」によるAの主張に反対しているので，2番目の「でも」が「逆のことを主張する」用法であることを示している。

さて，⑽，⑾の例で一つ注目に値する共通点は，「でも」のあとに「でも」が連続して現れることである。これは「でも」の持つ規則的特徴といえるが，なぜ連続して起るのであろうか。⑽の「でも」は同じ話し手(A)によって使われ，Bの主張に対する反論を導いている。討論において自分の主張をあくまでも通したい場合，一回主張したあと反論されても，それに対してまた反論するものである。Aによる「でも」の繰り返しは，Aが，Bに反論されても，あくまでもBを言いくるめようとするための会話のストラテジーではなかろうか。⑾では二つの「でも」が別の人によって使われている。Aが「でも」を使って主張したこと（Bはバイオリンがよく似合う，というプラスの評価）に対して，Bは「でも」を使って「バイオリンが弾けていない」というマイナスの評価を主張した。このように別の二人がそれぞれ違う主張をする場合にも，「でも」が繰り返し出てくる。結局，二つの「でも」の使い手が同じ人である場合，同じ人の主張が二回起り，違う人の場合も，反対する人同士の主張が交互に一回ずつ起る。

(b) トピックシフトの「でも」

次の会話も，「さんまのまんま」から取ったもので，ホストの明石家さんま(A)とゲストの森光子(B)のトークである。主話題は「Bはまだ若い男とのつきあいが可能か」ということである。

(12) （Bに「私の好きなタイプだ」と指さされて）

A：いや（0.1）ぼくですか（0.5）ぼくは距離を置かなくてもいいですよ：

B：（笑い）うそばっかり

A：いや：

B：うそばっかり

A：ひょっとしてわたしちょっとだけ財産目当てが::[（会場笑い）そんなことは [[ないですけど：

B：　　[（笑い）

[[これ目当て（右手の親指と人差し指で輪を作る）

A：でも独身ですもんね::

B：はあそうですよ（0.1）べつに（0.1）でもだ（0.1）どこもあのそういうふうに書きませんね：しゅしゅうかんしは

A：そらこう森光子東山熱愛中とか：

B：ひやかすような書き方するんですよ：

A：でもね（0.2）どう：してもやっぱりね森光子さんて（0.1）あの森光子さん自身はいやでしょうけど（0.2）おかあさんのイメージが

B：そうなんですよね：

A：強いんですよ [ね：

B：　　[そうですよね

（「さんまのまんま」A：明石家さんま　B：森光子）

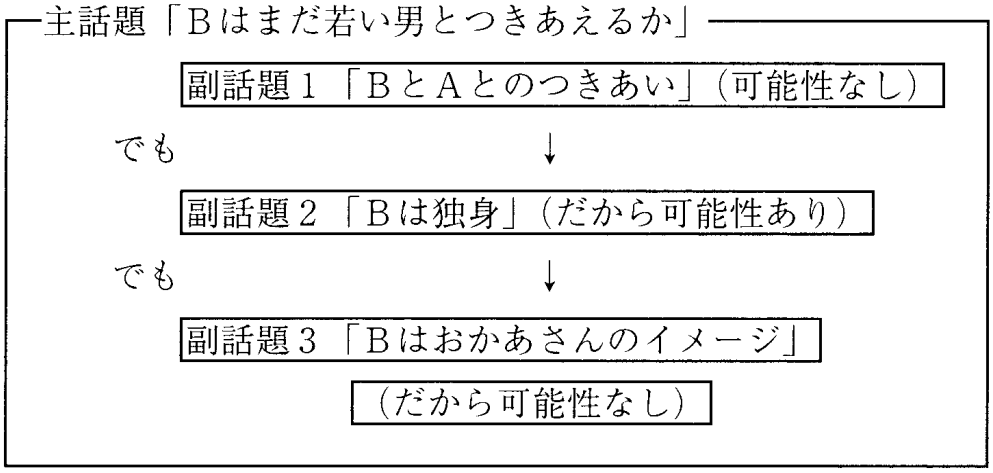
(12)の最初の「でも」は，Aが，Bをちゃかしながらほのめかした前項「Bは年を取っているからもう男とのつきあいは不可能だ」に対する反対の感想

「独身だからまだまだつきあいの可能性はある」を導いており，一応逆接としてつながっている。しかし，⑽，⑾に現れた二つの「でも」と異なるのは，主話題「Ｂはまだ若い男とつきあえるか」にそった会話の中で，「つきあい不可能」から「つきあい可能」へとシフトさせていることである。逆の主張でないことは，直後にＢが「はあそうですよ」と肯定していることから明らかである。Ａのトピックシフトの流れにＢが乗っているといえる。

二つ目の「でも」も，Ａが，自分自身で言った「独身だからまだまだ男とのつきあいの可能性はある」という前項に対する反対の感想「Ｂはおかあさんのイメージがあるから，やはりつきあいはもう不可能だ」を導き，一応逆接としてつながっている。しかし，これも前の「でも」と同じく，主話題にそいつつ「つきあい不可能」にシフトさせる機能も果たしている。前と同じく，直後にＢは「そうなんですよね」と肯定し，会話の流れに乗っている。

次の図２は，主話題「Ｂはまだ若い男とつきあえるか」にそって，二つの「でも」が副話題を導くようすを示す。

図２　「でも」による話題のシフト



ここでも，二つの「でも」が連続して出てくる。⑽，⑾の「でも」と同じく，これも「でも」を使った会話のパターンと言えそうである。この「でも」の連続はどのように説明したらいいだろうか。ここでは主導権を握っているのはホスト役のＡであり，そのＡが二つの「でも」を使っている点に注意したい。つまり，Ａは副話題１（ＢはＡとはつきあえない）を最初の「でも」

で否定し（Bは独身だから可能性がある），さらに次の「でも」でもう一度否定することによって話をもとに戻し，結局「Bは若い男とは付き合えない」という結論を導いている。この二つの「でも」は，ここの一連の談話を統一する機能を果たしているといえる。

(c) 感動的に振り返る「でも」

ここで，(11)の談話に出てきた最初の「でも」を検討する。Aはホストの古舘伊知郎Bはゲストの宮沢りえである。この会話の直前に，Bの小学校時代のテレビコマーシャルが流れ，その中でBがバイオリンを弾いていた。

(11) A：は::（会場拍手）でもね（0.1）あんなかでいちばん注目したいのはやっぱバイオリンだね（0.3）

B：ん::=

A：=似合うもの（0.2）あれで尺八なんかぷ::て（0.1）絶対似合わないもの

B：（笑い）

Aによる「でも」の前にはBの登場するコマーシャルが流れただけで，だれの会話もない。したがって「逆の主張」ではありえない。Aの会話の中で「あんなかで」とあることから，前に見たコマーシャルをAが思い出して使っているので，これは「感動的に振り返る」用法である。この「でも」は，前のテレビコマーシャル全体を総括し，一言でまとめる機能を果たしている。

以下は，筆者Aと妻Bとの会話である。

(13) A：松田聖子（0.1）どこに住んでんだ（0.2）ニューヨークか

B：さあ：ロスじゃないの？

A：どっちにしてもこっちにいんだろ

B：（2.0）でも（0.1）松田聖子ってやり手だよね::

（A：筆者，B：妻）

これは，ウィスコンシン州のマジソンにいたときの会話で，二つ目のAの「こっち」はアメリカを指している。Bが二つ目の会話で「でも」を使った直後にBに聞いたところ，Bは，松田聖子がブティックを開いたり，歌手を

したりしたときのことを思い出して「でも」を使ったという。前の文脈「松田聖子の居場所」とつながっていないのは，直前の２秒の休止によってもわかる。前の文脈を飛び越えて，過去を振り返っているのである。感動をもって振り返っているのは，文末の「だよね：」からもうかがえる。この「でも」もＢの頭の中での松田聖子に対する総括を導いている。つまり，ブティックを開いたり，歌手をしたりといったさまざまな松田聖子の活躍を，「やり手」の一言でまとめている。

3.2「しかし」の分析

(a)「逆の主張」と(b)「トピックシフト」の「しかし」については，私の資料には出てこなかった。

(c)感動的に振り返る「しかし」

(14)　（原代議士の50年間にわたる政治家としての活躍のビデオを見たあとで）

Ａ：原さんっていい方ですね：ほんとに（0.2）すなおにお気持ちを出す方ですがね：

Ｂ：でもあの（0.2）お話しをなさっていることに（0.2）あの（0.2）字幕がついているところが（笑い）ひどいですね

Ａ：（笑い）そうですか（2.0で笑いがやんで，息継ぎ0.5）しかし50年といいますとたいへんなことですよ：

（「ブロードキャスター」Ａ：福留功男アナウンサー，Ｂ：石坂啓）

(14)のＡが使っている「しかし」は，直前に見たビデオの中の原代議士の活躍ぶりを振り返って感動的に使われている。前の文脈「原代議士の話に字幕がついている」を飛び越えて，ビデオを振り返っていることは，「しかし」の前の２秒の間合いや0.5秒の息継ぎからもわかる。感動的に振り返っているのも，文末の「ですよ：」からわかる。この「しかし」も，原代議士のビデオの文脈もすべて含めた談話を総括する機能を果たしている。

4．まとめ

4で分析した語も含めて，私の資料の「しかし」と「でも」の種類別の数（表3）に加えて，1節で挙げた唐津による分類の表（表1），2節で挙げた書きことばにあらわれる語の分類表（表2）をもう一度まとめて示す。

表3　話しことばに現れる「しかし」と「でも」の分類

	しかし	でも
a．逆の主張	0	14
b．トピックシフト	0	9
c．感動的に振り返る	3	1

表1　唐津による「しかし」と「でも」の例の種類

	しかし	でも
a．逆接	(2)	(3)
b．反対のトピックを導入	(4)	なし
c．前の文脈を切りはなす	なし	(5)

表2　「影絵の町」に現れる「しかし」と「でも」の分類

	しかし		でも	
	会話文	地の文	会話文	地の文
a．逆接	2	15	15	6
b．トピックシフト	0	0	0	0
c．感動的に振り返る	1	0	0	0

表3における「しかし」のa「逆の主張」とbの「トピックシフト」のギャップについては，それぞれ表1に示したように唐津の(2)と(4)で補うこととする。逆にトピックシフトの「でも」（9例）と感動的に振り返る「しかし」（3例）については唐津の資料にはなかったもので，私の論文で補うことができた。この論文の第一の発見は，b「トピックシフト」とc「感動的に振り返る」「でも」と「しかし」が，談話に出てくる「でも」と「しかし」の特徴であ

るということである。これは，表２の小説に現れるものと比べるとはっきりする。小説に出てくる「しかし」と「でも」はそのほとんどがａ「逆接」の用例であり，ｂ「トピックシフト」は全くなく，ｃ「感動的に振り返る」の用法がわずかに１例見られるだけであった。「感動的に振り返る」「でも」と「しかし」は，前の文脈を総括する機能を果たしていることもすでにのべたとおりである。

もう一つの発見は，「でも」が連続して現れるパターンである。ａの「相手と逆の主張」の場合，これは，二つの「でも」が一人で使われる場合でも二人で使われる場合でも，相手と相互に主張が行われるとき現れる。ｂの「トピックシフト」の場合，二つの「でも」によって談話全体をまとめる機能を果たしていることを述べた。

最後に，ａ「逆の主張」，ｂ「トピックシフト」，ｃ「感動的に振り返る」の三つの用法を区別する方法を提示する。

まず，「でも」については，文のどの位置に起るかによって見分けられる場合がある。つまり，ｂとｃの「でも」は文頭にしか来ないが，ａの「でも」は⒂のように文頭に起るだけでなく⒃や⒄のように文中や文末にも起る［⒂，⒃はそれぞれ前出⑽，⑾より。⒄は「さんまのまんま」でホストの明石家さんまがゲストの石田壱成に言ったことば］。

⒂ でも：かなり飛距離とかジャンボとか回ったら：おいていかれるじゃないですか::

⒃ バイオリンてふつうでもさ：

⒄ たまたまて（0.2）芸能界へはいる気持ちは小さいころからあったでしょ？でも

次に，ａとｂの「でも」の区別は，文脈によって判断できる場合がある。つまり，⑽，⑾の例のように，「でも」のあとに相手の反論がある場合はａ「逆の主張」を，⑿の例のように「でも」のあとに相手の同意がある場合はｂ「トピックシフト」を表す。

さらに，ａとｂの「でも」は繰り返し起ることがあるが，ｃの「でも」は，

感動を持って一回振り返るだけで，繰り返し起ることはない。

また，ノンバーバル表現も，これらを見分ける参考になる場合がある。まず，cの「でも」と「しかし」の前には，比較的長いポーズがある場合が多い［⒀の「でも」，⒁の「しかし」を参照］。これは，そのポーズの間に過去を振り返っているからである。ジェスチャーによってaの「でも」であるとわかる例もある。次の例は，バラエティショー「さんまのまんま」から取ったもので，Aはホストの明石家さんま，Bはゲストの石田壱成である。

⒅　A：はたちはしっかりしてるな：：あかんで：そんなにしっかりしたら：：
　　B：そうですか：ぜん：ぜん$\boxed{\text{でも}}$（0.2）しっかりしてない
　　（「さんまのまんま」A：明石家さんま，B：石田壱成）

Bが「ぜん：ぜん」と言ったとき，Bは頭を横に振り，「でも」と言ったとき，左手を振っている。これらのジェスチャーによって，「でも」がAの言ったこと（Bがしっかりしていること）と逆の主張（しっかりしていないこと）を導いていることがわかる。

談話分析の記号

＝前の発話のあと，間髪を入れず次の発話が続く

[,[[　前の発話とあとの発話がオーバーラップする出発点

(0.3) ポーズの時間。単位は秒

：　母音が伸ばされる

？　上昇のイントネーション

____　高いピッチ。下線部が強調される。

テキスト

書きことばのテキスト

阿刀田高　1988　『影絵の町』　東京：角川書店

話しことばのテキスト

(1)　テレビプログラム

「さんまのまんま」（ホスト：明石家さんま，ゲスト：森光子）1995年４月14日放映

「さんまのまんま」（ホスト：明石家さんま，ゲスト：杉原輝雄）1995年５月15日放映

「さんまのまんま」（ホスト：明石家さんま，ゲスト：石田壱成）1995年９月８日放映

「さんまのまんま」（ホスト：明石家さんま，ゲスト：野々村真）1995年９月15日放映

「おしゃれカンケイ」（ホスト：古館伊知郎，ゲスト：宮沢りえ）1995年６月25日放映

「ブロードキャスター」（福留功男アナウンサー，ゲスト：石坂啓）1995年９月23日放映

(2)　妻と筆者の会話　1995年11月18日筆記

参考文献

『言語学大辞典 第６巻 術語篇』 1996 東京：三省堂

Karatsu Mariko 1995. A functional analysis of *Dewa, Dakara*, and *Shikashi* in Conversation. In *Japanese Discourse* Vol 1 : pp.107-130.